

2. 事業の目的と概要	
(1)上位目標	村レベルにおける不発弾事故被害者等に対する応急処置等の能力及び救急搬送体制の強化、ならびに回避教育の質の向上を通して、不発弾事故による被害を最小限にする。
(2)事業の必要性(背景)	<p><u>(イ) 深刻な不発弾汚染と被害状況</u></p> <p>1960年代から1970年代のインドシナ戦争において、米国が200万トン以上もの爆弾を投下し、その中にはクラスター爆弾の子爆弾2億7千個も含まれていたと推定される。2008年のラオス政府機関による調査によると、1964年以降のラオスの不発弾被害者総数は50,136名である。シェンクワン県では約6,800名が被害を受け、その45%にあたる約3,200名が生存している。2010年の年間のラオス全土の被害者数は117名であり、その内24名が死亡、93名が傷害を負っている。県別の被害ではシェンクワン県が最多の41件(39名負傷、2名死亡)である。</p> <p>また、不発弾被害者に関する統計が確立していないため、これまで報告されていない事故も多数あると推測され、同県内の被害者支援のニーズは非常に高いと言える。十分に治療を受けられる病院が近くになく、また治療費を払うことが困難なため、受診を諦めた被害者や病院に運ばれる前に死亡した者も含めると、さらに被害件数が多いと推測される。</p> <p><u>(ロ) ラオスの保健医療制度</u></p> <p>ラオスの保健医療制度は、県病院、郡病院、ヘルスセンター、村レベルの村落保健ボランティア、というように、ピラミッド状に組織されている。本事業では、ラオス保健医療制度で最下層を支える村落保健ボランティアを対象としている事業である。村では、村長に任命された村落保健ボランティア1~2名が、村人の保健医療に係わる活動を行っている。彼らは村人の軽度の治療については基礎的知識を備えているが、応急処置に関する研修は受けておらず、不発弾事故で発生しやすいタイプの外傷の手当てや蘇生処置に関する知識と技術は限られている。また、村落保健ボランティアが管理する薬箱には応急処置を施すための医療資材が十分に揃っていない。</p> <p>ヘルスセンターは簡易保健医療施設として国内に789ヵ所設置されている。各ヘルスセンターには数名の看護師が常駐し、村と病院施設の中継点として、保健医療活動を行っている。しかし、その設備や医療資機材は老朽化等により十分でないため、救急医療におけるヘルスセンターの機能を強化する支援活動が必要である。</p> <p><u>(ハ) 不発弾被害者への救急医療体制</u></p> <p>山間部に位置するシェンクワン県では、不発弾事故が起きた際、村から病院に搬送され適切な治療を受けるまでに、数時間から数日間を要する。ラオスの不発弾対策の中心的組織である国家規制局(NRA:National Regulatory Authority)の統計によれば、その間に被害者の40%前後が命を落としており、一命を取りとめたとしても、治療が遅れたために、傷口が悪化し手や足</p>

	<p>を切断せざるを得なくなることも多い。また、県内に救急車は4台しかなく、救急車が入れない悪路も多いため、搬送手段としては、農業用トラクターやバイク等が使用されている。</p> <p><u>(二) 第1期事業の成果を踏まえた継続の必要性</u></p> <p>第1期事業において、ペック(Pek)郡・パーサイ(Phaxai)郡の対象郡のうち、2011年8月中旬までに順次39村70名の村落保健ボランティアに応急処置等の研修を行った。この研修終了後、幸いにも不発弾事故の被害に遭った者はいなかったが、村落ボランティアは過去の不発弾事故被害者約30名に対して傷の手当てや精神的なサポートなどを行っている。さらに、火傷などの怪我をした村人のべ1,000人以上に対しても処置を行っている。このように村落保健ボランティアは、村レベルでの救急医療の中軸となっており、不発弾事故が発生している第2期事業の対象地である他郡の村々においても同様の研修の必要性は高い。</p> <p><u>(ホ) 地雷・不発弾回避教育</u></p> <p>不発弾除去・啓発を行う政府機関 UX0-Lao は、同県内の村々を定期的に巡回し、地雷・不発弾の回避教育プログラムを実施しているが、同プログラムで使用される教材は不足しており、資機材の老朽化が進んでいる。</p>
<p>(3)事業内容</p>	<p><u>(イ) 応急処置に関する冊子とパンフレット、ポスターの作成</u></p> <p>不発弾事故後の応急処置に関する冊子を村落保健ボランティア向けに260部、より専門的な冊子をヘルスセンター看護師向けに120部作成する。内容は、不発弾事故に特有な外傷処置や救命処置と搬送方法(搬送時の姿勢等)を中心として、利用可能な制度(治療費補助、UX0-Laoへの除去要請)に関する情報等が含まれる。また、村人向けに、上記の応急処置の要点を簡潔に図解したパンフレット2,000部と啓発用ポスター100部を作成する。また、第1期事業で作成した、村落保健ボランティアと村人向けのポスターの改訂版を作成・配付する。</p> <p><u>(ロ) プークー(Phoukout)郡・カム(Kham)郡の村落保健ボランティア能力強化研修および救急キットの配付</u></p> <p>第1期事業において、ペック(Pek)郡・パーサイ(Phaxai)郡で実施した事業を上記2郡で実施する。対象2郡約120村(人口約73,000人)の全村落保健ボランティア約240名を対象に、応急処置等に関する研修を行い、救急キットを供与する。初めに、郡病院職員が村落保健ボランティア向けの研修を実施できるようにするため、県保健局・県病院職員・UX0-Lao医療班が郡病院職員に「Training of Trainers (ToT)」研修を行う。その後、郡病院職員が講師となり、村落保健ボランティアへ研修を行い、救急キットを配付する。研修を受けたボランティアは、不発弾事故後、救急キットとともに速やかに現場に駆けつけ、消毒液による傷の洗浄、包帯・三角巾等による止血等の初期段階の応急処置を行い、病院搬送時の適切な姿勢や注意点等を指示し、必要に応じて搬送に付き添う。また、ボランティアはキットを持って</p>

	<p>村を巡回し、過去に被害に遭い、包帯交換の管理等、継続的な治療が必要な対象 4 郡の被害者約 110 名にも処置や問診を行う。</p> <p>研修後には、村落巡回チームが不発弾被害の多い村を巡回し、村落保健ボランティアの活動をフォローアップすると同時に、村人に対しても補完研修を行い、村人に事故後の応急処置の重要性を啓発し、村レベルで不発弾事故に備える体制作りを行う。対象村数は 4 郡 66 村。村では予め各村の車・トラクターの持ち主を「村の救急車両ドライバー」として任命し、被害者を速やかに搬送できるよう手配しておく。</p> <p><u>(ハ) パーサイ (Phaxai) 郡・ペック (Pek) 郡・プークー (Phoukout) 郡・カム (Kham) 郡のヘルスセンター看護師能力強化研修および資機材供与</u></p> <p>対象 4 郡の 25 のヘルスセンターに常駐する看護師約 80 名を対象に、救急処置に関する研修を行い、救急医療用資機材 25 セットを各ヘルスセンターへ配付する。本研修は前述の TOT 研修を修了した郡病院職員が講師となり、より高度な応急処置、及び県レベルの医療施設に搬送する際にも迅速に搬送し、患者の容態を医療機関に報告できるように研修を行う。尚、一部の研修は村落保健ボランティアと合同で開催されるため、ヘルスセンターの看護師と各地域の村落保健ボランティアの連携強化が期待される。</p> <p><u>(ニ) UX0 Lao 回避教育チームに回避教育用教材と資機材の支援</u></p> <p>これまで UX0 Lao の手がけてきた回避教育では、焚火や農作業など、シェンクワン県で不発弾事故が起こりやすい状況についての説明に重点が置かれてこなかった。当会の他国での回避教育の経験から、事故の起こりやすい状況について、人形劇などを用いてより具体的に示すことが、回避教育の効果を高めることがわかってきたため、今期事業では、教育内容を協同で計画し、ポスター内容も改定する。</p> <p>また、回避教育に必要なノート PC、教育用の人形、及びマイクやスピーカーの資機材を提供する。</p>
(4) 持続発展性	<p>本事業は、3 年間の事業の第 2 期と位置づけ、第 3 期は事業対象地域を同県内の残る 2 郡へと拡大し、村落保健ボランティア及びヘルスセンターの看護師を対象とした研修を継続して実施する。村の救急キットは、村落保健ボランティアが責任を持って管理し、既存の薬箱制度と同じ方法で補充していくことで持続性を確保する。第 3 期の事業完了後の応急処置研修および救急搬送体制の強化、救急キットの包括的な管理及び継続した普及活動については、県保健局・病院関係者へ引き継ぐことを予定している。また、回避教育については、UX0 Lao が供与された資機材を活用して第 3 期終了後も継続して事業を行う。</p>
(5)期待される効果と成果を図る指標	<p>本事業の第 2 期終了時に達成されるべき成果</p> <p><u>(イ) 県内 4 郡の村落保健ボランティアの能力強化</u></p> <p>【成果】プークー郡・カム郡の村落保健ボランティア約 240 名が応急処置研修を受け、第 1 期に研修を受けたパーサイ郡・ペック郡を併せた 4 郡の村落</p>

保健ボランティア約 410 名が、救急キットを用いた応急処置と継続的治療を担う。

【指標】①プークー郡・カム郡の研修を受けた村落保健ボランティアが、研修後の実力テストにおいて、ほぼ全員が一定の水準に到達する。②不発弾事故等の際に被害者に基本的な応急処置を施し、病院への搬送を手配できるようになる。③県内 4 郡村落保健ボランティアが約 110 名の過去の不発弾被害者、更には怪我人を治療・問診する。

(ロ) 県内 4 郡のヘルスセンター看護師の能力強化

【成果】パーサイ郡・ペック郡・プークー郡・カム郡のヘルスセンター看護師が、救急処置に関する適切な知識を得る。

【指標】①研修を受けたヘルスセンターの看護師（約 80 名）が、より専門的な内容の実力テストにおいて、全員が一定の水準に到達する。②不発弾事故等の際に被害者へ適切な救急処置を施し、必要時には県レベルの高度医療施設との連携と搬送先の医療機関に適切な情報提供を行うことができる。

(ハ) 地雷・不発弾の回避教育活動

【成果】UX0-LAO の回避教育チームが、改訂した教材と資機材を活用して、村人により専門的、効率的に回避教育を行うことができる。

【指標】UX0-Lao の回避教育担当スタッフの 8 割が改訂後のパンフレットや提供した資機材を用いることで、より効率的・効果的な回避教育が実施可能となったと回答する。同スタッフが村人に回避教育をすることにより、UX0-Lao が回避教育を実施する全県 8 郡（人口約 25 万 6,000 人）の村人が不発弾と疑われる不審物に触らなくなり、また、発見した不発弾の場所、形や大きさ、数量などについて、ただちに UX0-Lao に報告するようになる。